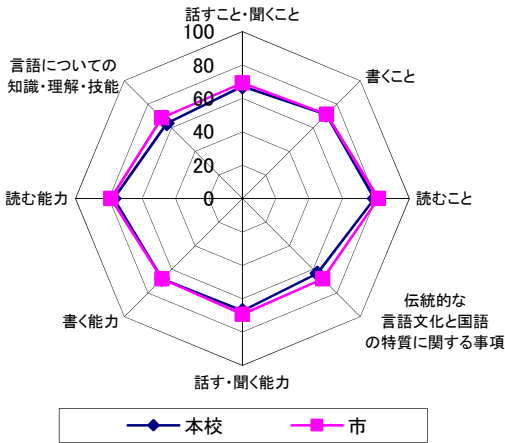


宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	67.2	69.3	73.4
	書くこと	71.2	71.3	74.6
	読むこと	79.2	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.4	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	67.2	69.3	73.4
	書く能力	67.9	68.1	71.7
	読む能力	77.0	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	63.9	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●「話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる」「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができる」の設問では、共に市の正答率を2～3ポイント下回っており、話し合いの内容を正確に聞き取ることに課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話の内容を正確に聞き取る力を高めるために、話の要点を簡潔にメモしながら聞く活動を、授業や日常の活動の中に取り入れていく。
書くこと	○「国語辞典の資料を使って、意見文に書く内容を理解することができる」の設問では、市の正答率を3.2ポイント上回っている。 ○「自分の意見を明らかにして文章を書くことができる」の設問では、市の正答率を1.2ポイント上回っている。 ●「指定された長さで文章を書くことができる」の設問では、市の正答率を4.1ポイント下回っている。	・授業内のまとめや振り返りを書く際の字数に制限をかけるなど、指定された長さで文章を書くことに慣れる機会を設ける。
読むこと	●物語文の「場面の描写を読み取ることができる」の2つの設問では、一方は市の平均を2.5ポイント上回っているものの、もう一方は市の平均を14.1ポイント下回るなど大きく差が出ていた。問われ方が変わると答えられないという課題がある。	・今まで同様、日頃から本に親しみ、読書への関心を高められるよう、図書館利用の奨励や朝の読書タイムの活用を図る。 ・登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物の言動や情景などを通して、暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、繰り返し読むことで、想像を豊かにしながら深く読むことができるように、文学教材の読解の指導を進める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「三字の熟語の構成について理解している」の設問では、市の正答率を6ポイント上回っている。 ○「第6学年配当漢字を読むことができる」の設問では正答率が100%のものもあった。 ●「第5学年配当漢字を書くことができる」の設問では、市の正答率を10～20ポイント以上下回る問題もあり、特に書きについては未定着な児童が多い。	・新出漢字だけではなく、既習の漢字についても同様に取り上げる。漢字の小テストや漢字練習の時間を確保したり、間違えやすい漢字については再度指導したりすることで、漢字の定着を図る。